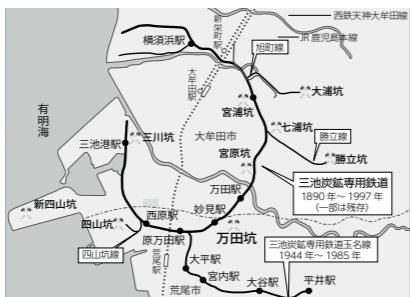
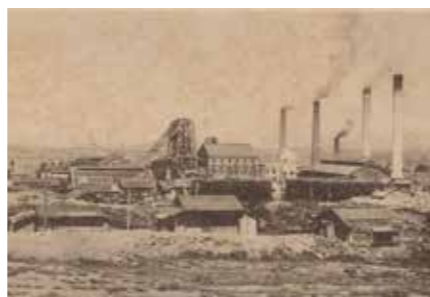




▲専用鉄道敷と原万田プラットホーム跡



▲炭鉱から港へ続く鉄道線形



▲昭和初期の万田坑 (写真提供：山田屋本店)

◆「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」リスト

エリア	サイト	構成資産	所在地
萩	萩	萩城下町	山口県萩市
		萩反射炉	
		恵美須ヶ鼻造船所跡	
		大板山たたら製鉄遺跡	
		松下村塾	
鹿児島	集成館	旧集成館	鹿児島県鹿児島市
		寺山炭窯跡	
		関吉の疎水溝	
佐賀	三重津海軍所跡	三重津海軍所跡	佐賀県佐賀市
葦山	葦山反射炉	葦山反射炉	静岡県伊豆の国市
釜石	橋野鉄鉱山	橋野高炉跡及び関連施設	岩手県釜石市
長崎	三菱造船所	小菅修船場跡	長崎県長崎市
		長崎造船所 向島第三船梁	
		同 旧木型工場	
		同 ジャイアント・カンチレバークレーン	
	高島炭鉱跡	同 占勝閣	
		高島炭坑跡	
	旧グラバー住宅	瑞島炭坑跡	
旧グラバー住宅			
三池	三池炭鉱・三池港	三池炭鉱宮原坑	福岡県大牟田市
		同 万田坑	熊本県荒尾市
		同 専用鉄道敷跡	福岡県大牟田市・熊本県荒尾市
	三角西港	三池港	福岡県大牟田市
		三角西 (旧) 港	熊本県宇城市
八幡	八幡製鐵所	八幡製鐵所 旧本事務所	福岡県北九州市
		同 修繕工場	
		同 旧鍛冶工場	福岡県中間市
		同 遠賀川水源地ポンプ室	

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」とは

本遺産群は、8県11市にまたがる28の資産で構成される産業活動に関わる遺産の集合体です。日本は19世紀末からおおよそ50年という短期間で製鉄・

鉄鋼、造船、石炭産業の急速な産業化を達成しました。このことは経済的な発展を成し遂げる礎となりました。日本の近代化は西洋諸国から技術や知識、機械などを積極的に導入し、日本独自の技術に置き換え、試行錯誤を繰り返しながら成し遂げられました。本遺産群は貴重な遺産を

一つにまとめることで、日本独自のものづくりの文化や、世界的にもまれな日本の飛躍的な発展の過程などを時間軸に沿って伝えることができる珍しい事例です。そのため、広範囲に存在する複数の資産を一つの遺産とする「シリアルノミネーション」という方法で世界遺産登録を目指しています。

充実が図られ、三池炭鉱の主力坑として活躍しました。しかし、採炭現場が有明海方面に延びたことで坑内運搬の効率が悪化したため、昭和26(1951)年に採炭が中止され、第一竖坑などが解体されました。それ以降、第二竖坑は三池炭鉱全体の坑内水の揚水などの管理用施設として、平成9(1997)年に三池炭鉱が閉山するまで稼働しました。現在、万田坑には、第二竖坑ヤングラ、巻揚機室、倉庫及びポンプ室などが保存されており、当時の優れた炭鉱の技術を伝えています。また、万田坑には、第一竖坑跡、職場、プラットホームなど多くの施設が残っており、採炭・揚炭・選炭・運炭の工程など日本の石炭産業を理解するための重要な資産となっています。

坑口と港をつなぐ専用鉄道敷跡

炭鉱専用鉄道は、三池炭鉱の各坑口で掘り出された石炭を港から国内の工業地

帯へ輸送するために整備された貨物専用鉄道です。北から大牟田市の横須浜駅、宮浦坑、七浦坑、宮原坑、荒尾市の万田坑、四山坑を経由して三池港までつながり、三池炭鉱と関連工場群を結ぶように網の目状に形成されました。石炭生産の全盛期(1940～50年代)には支線を含め総延長150kmほどに及び、のちに炭鉱で働く人たちの通勤にも利用されました。三池炭鉱の閉山に伴いレールは取り除かれましたが、プラットホーム跡は良好な状態で残っています。現在、鉄道敷跡には鉄塔(電気)や配管(水道)などのライフラインが設置されています。専用鉄道敷は、石炭などの重量物を大量に運ぶため、線路に傾きが少なくなるように敷設されていました。そのため、土地を造成した切土・盛土の跡が残っており、当時の鉄道の運行を思い起こすことができます。専用鉄道敷跡は、日本で唯一、石炭採掘の現場から港まで連続した鉄道線形として残っており、良好な炭鉱景観を形成しています。

三池炭鉱・三池港 サイトとは

三池炭鉱・三池港サイトは、三池炭鉱宮原坑(大牟田市)、三池炭鉱万田坑(荒尾市)、三池炭鉱専用鉄道敷跡(荒尾市・大牟田市)、三池港(大牟田市)で構成されています。石炭を産出した炭鉱、石炭を運搬した専用鉄道、石炭を海外に輸出した港湾という一連の流れを知ることができる日本で最も保存状態のよい施設です。

日本最大規模の竖坑 万田坑

万田坑は、三井が総力を挙げて整備した日本最大規模の竖坑です。三池炭鉱の坑口の一つとして、明治35(1897)年に出炭を開始しました。明治35年に完成した第一竖坑と、明治41(1908)年に完成した第二竖坑からなります。大正から昭和にかけて各施設を電化するなど設備や機械の

世界遺産登録に向けて

皆さんのご協力のおかげで、今回、世界遺産登録に大きく近づくことができました。今後は、平成26年にユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査などを経て、平成27年の世界遺産委員会での世界文化遺産登録を目指します。世界遺産登録には地元の熱意や盛り上がりが必要不可欠です。そのため、市では従来のイベントのほかに、新たにイベントを企画するなどして、登録への機運を高めていきます。また、文化財保護法や景観法などの国内法に基づいて、万田坑などの資産を万全の体制で保全・管理していきます。日本の近代化や炭鉱で生きた人たちの営みを伝える地域の宝が世界の宝になる日は、すぐそこまでやってきました。これからも、荒尾の宝もが世界の宝もんなるよう頑張りますので、皆さんの応援よろしくお願いたします。